

●生徒指導●

# 子どもたちが愛されないと実感できる 学校づくり

地域づくりを目指して

岡山県 岡山市立岡輝中学校（校長 片山安基夫）

## 〔研究のポイント〕

- ① 異動で崩れない協同学習の構築
- ② 子どもの学力の保障
- ③ 地域の中の学校を意識した取り組み

岡山市は、北を中国山地、南を四国山地に挟まれた瀬戸内海沿岸部に位置するため、典型的な瀬戸内海式気候に分類される。

1989年以降、降水量1mm以上の降水日数が全国の県庁所在地では最少であるため、「晴れの国」をキャッチフレーズとしている。

その市街地に位置している本校は、生徒指導困難校として知られてきた経緯がある。かつては、器物破損や喫煙、廊下を飛ぶロケット花火、授業に入れない生徒など、先生方の懸命な努力にも関わらず荒れていた。生活保護率の高さや、一人親家庭の多さは、家庭の教育力が十分なものではない理由の一部を数値で表している。

しかし、現在、そうした本校のイメージを持って来校された方々は、そのイメージとの違いに驚かれる。

## I 主題設定の理由

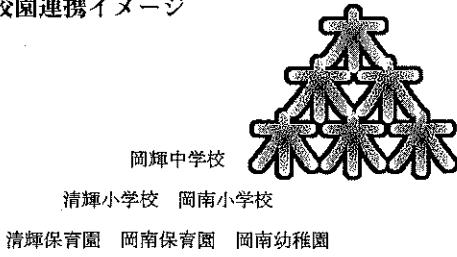
現在の本校には、二つの柱がある。

- ☆ 学区でつながれ、地域協働学校
- ☆ みんなでつながれ、協同学習

この根底にあるのは、学校園のことを「地域の中にある学校園」と捉える考え方である。学区の0歳から15歳までの一貫した子育てや教育を実現させたいという願いから、岡輝中学校・清輝小学校・岡南小学校・岡南幼稚園・清輝保育園・岡南保育園による「岡輝学区六校園」という概念が生まれた。

義務教育を一貫したものにするためにはまず小学校・中学校の連携が必要であり、また小学校の立場で言えば就学前教育との連携が欠かせなかった。

## 六校園連携イメージ



※ 岡南幼稚園・保育園は、来年度から岡南認定こども園になる。

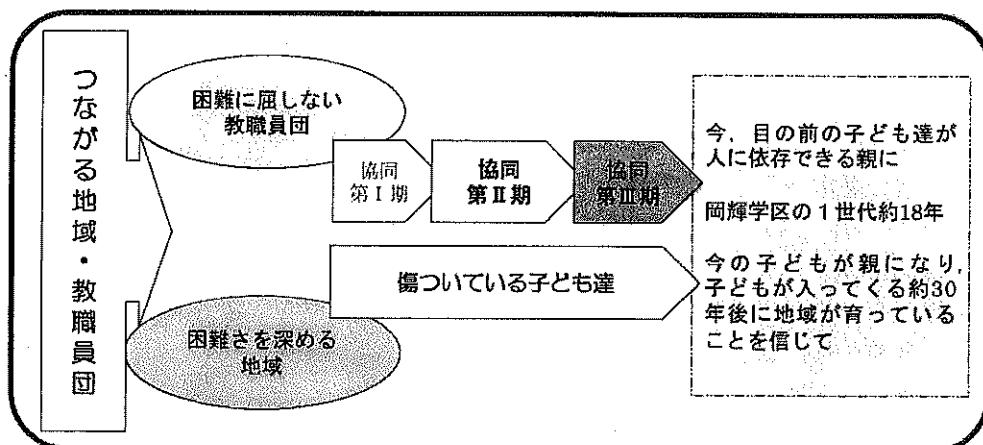
異校種間の連携は容易なことではない。就学前から中学校までが連携するきっかけになったのが、平成10年から3年間の「岡山東警察署パイロット地区指定」、平成11年から3年間の「岡山県いきいきスクール支援事業」だった。これらの指定に前向きに取り組む中で互いの連携は深められた。特に平成13年度から学区内の公立保育園2園が連携の仲間に入り、現在の形となった。

「協同学習」に関しては、本校では、平成19年度から、また、平成20年度からは、学区2小学校で取り組んでいる。

すでに保育園・幼稚園では、協同学習的な考え方を基盤にした取組が行われており、「連携から一貫へ」の道筋ができている。

このことにより、「生徒指導の原点は授業である」という新たなビジョンを持って、

[本学区が目指すイメージ図]



学校運営を進めている。

また、これまで学校丸抱えで生徒指導を続けてきたため、地域の人々も学校にどのように協力すればよいかわからなかった。

そこで、保護者や地域の方々も参加するイベントを開催し、学校のありのままの姿を見てもらおうと考えた。イベントの実施にあたって地域の協力をあおぎ、教職員や保護者らで結成した「岡輝中学校区地域学校協議会」が運営の中心となった。これには、PTAのOBの協力もあり、この流れは、現在も続いている。

イベントに参加することで、自然と学校の情報は地域にも出ていく。当初「学校が荒れるのは教職員の指導力の問題」と考えていた人たちにも生徒や教職員の頑張りや大変さが理解してもらえるようになった。

このような取組の結果、落ち着いて学習ができる環境ができつつある。

## II 研究の目的

本研究は、本学区の様々な取組を振り返ることで、今後もその取組を、継続・発展させていくためのものである。

### III 研究の内容

#### 1. 異動で崩れない協同学習を構築

「学び続ける子どもは決して崩れない」ということを信じ、

1. 不登校の子どもをなくす
2. 授業を離脱する子どもをなくす
3. 学力を向上させる

この3点を、大きな目的として始めた協同学習であるが、教職員の異動で入れ替わりが度もある今の中学校区の現実を見ると、9年間取り組んできた協同学習の理念・哲学・方策を、今後も全教職員で継続、継承していくかなければならない。

協同学習に不安を持ちながら新しく赴任してきた教職員に、前向きにそして一緒に取り組んでいこうという意欲を持ってもらうことが大切である。そのために、次のような取組を行っている。

#### (1) 1人年2回以上の授業公開

年度当初に年間の授業公開の日程を決め、1人年2回以上（参観日等を含めると年4回以上）授業を公開する。

週に1回、学年の教員全員で授業（子ども）を見取り、その後研究協議を行う。

4月前半に、第2学年と新しく赴任してきた教職員で、研究授業・研究協議を行う。

研修を何度も重ねても、実際の授業を見て、一緒に授業について語ることをしなければ授業のイメージを持つことはできない。

協同学習の基本や子どもの見取り方を、早い時期に一緒に行い、見通しを持ってもらうことが大切になる。

研究協議の中では、授業評価ではなく、子どもの事実を中心にして語り合うことで、安心して授業を公開できる雰囲気も作っている。



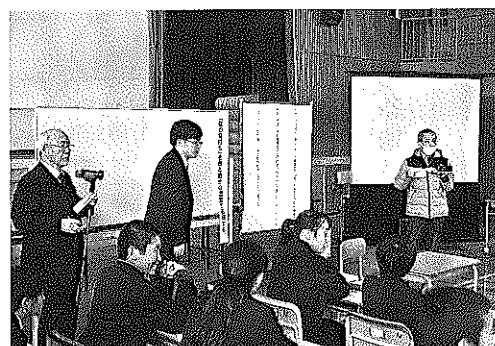
◆ 研究授業のようす

#### (2) 学校全体研修（学期に1回）

前述した授業公開の他にも、学期に1度、各学年代表による公開授業の実施も行っている。教員全員で1学年1クラスの授業を見取り、研究協議を行なう。スーパーバイザーの先生からの指導・講評を受け、協同学習の深化・進化の一助としている。



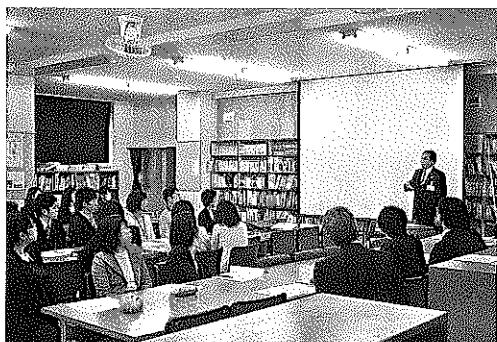
◆ 2学期：全体協議会



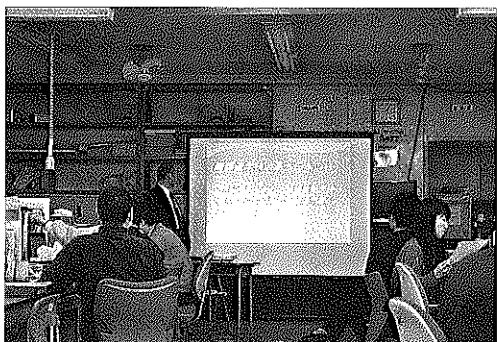
◆ 3学期：国語科の公開授業

### (3) 学区新任者研修

4月当初、岡輝学区（保幼小中六校園）に新しく赴任してきた教職員を対象に、協同学習を取り入れた前校長から、岡輝学区の厳しさの背景や、今までの取組、これから展望等についての講演をしていただき、各学校園の研修をさらに進めた。



◆ 新任者研修

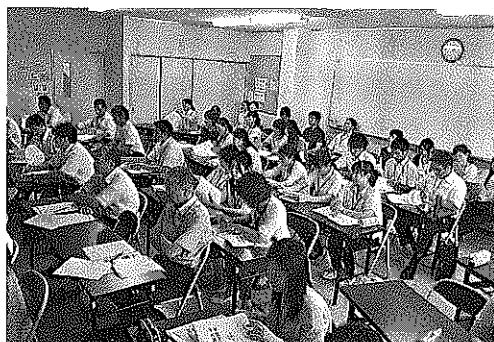


◆ 各学校園での研修

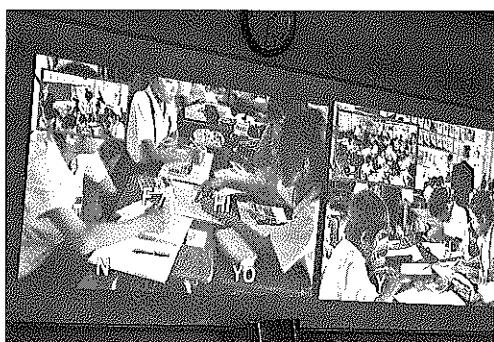
進路を保障していく体制が整ってきた。

各校園では、年に1度、授業・保育を公開してお互いに参観し、授業・子どもの事実・学区の現実を語り合い、これからの取組の方針を共有する機会を確保している。

また、夏季休業中には、六校園の1つの授業ビデオを全員で視聴し、研究協議を行い、スーパーバイザーに指導・講評、講演を行っていただき、中学校区全職員で「学びの共同体」の取組について共通理解を図る研修の機会を作っている。



◆ 研修の様子



◆ ビデオでの授業研究

### (4) 学区保幼小との連携

岡輝中学校区では、中学校での開始から1年後に、小学校も協同学習に取り組み、幼稚園・保育園も「学びの共同体」の理念で保育（遊び＝学び）を行うようになった。

0歳から15歳までの間、公的な機関である学校園が連携を取り、子ども達を一貫した教育で地域とともに責任を持って育て、

#### 《研修後のアンケートより（抜粋）》

◇ 保幼小中でそれぞれ見る視点が違い、それぞれの段階での子どもの実態や教職員の関わり方が共有できたのは良かったと思う。

また、授業の内容だけでなく、情報交

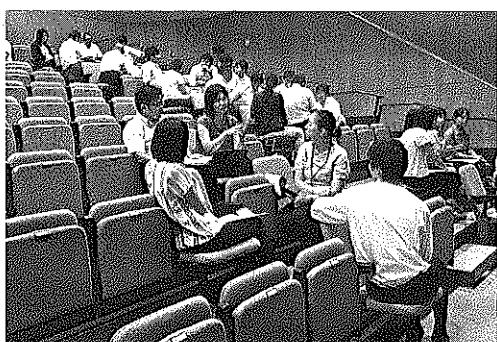
換や実態把握の場になっているように思いました。

#### (5) 四校協同学習合同研修会

岡山市では、本校のほか、西大寺中学校、福田中学校、足守中学校が、抱える課題点は異なるが、同じ協同学習の理念・哲学で学び（授業）を行っている。

5年前からは、公開授業の交流や、夏季休業中の四校合同共同学習研修会を開いている。

合同研修会では、授業を中心として語りあうために、授業ビデオを用意し、全員で視聴した後、教科別少人数で研究協議を行い、授業を通して子どもの見取り方や、ケア（つなぎ・戻し）の仕方など、具体的な話ができるようにした。



◆ 全体会の様子



◆ 分科会の様子

その上で、教科としてのめあて、デザイン、課題など日頃の自分の授業のことについて語り合うようにしている。

スーパーバイザーには、授業についての具体的な指導講評と講演を行っていただき、授業力向上の一助とした。

また、協同学習について同じ悩みを持つ教職員が集まることで、孤立せずに安心感を持って取り組むことができ、その悩みを語り合い解決の方法を相談したり、今後の交流について語り合ったりすることで授業の進化・深化を図っている。

#### 《研修後のアンケートより（抜粋）》

◇ 実際の授業にすぐ活かせそうなことをたくさん教えていただきました。若年者が悩んでいる部分がとても似ているなど感じました。同じ教科の他校の先生と関わることができ、つながりを持てて良かったです。

◇ どの学校においても同じような疑問を感じており、正解は出ないが、お互いの言葉をヒントにできたので、よい機会がありました。

◇ 協同での生徒の見取り方などがわかった。「一人残らず学習に参加」させるために2学期工夫していきたい。ついつい分かっていることを説明してしまうので気をつけたいとおもいました。

◇ 「関係の中で子どもが学ぶ」という言葉で初心に立ち返り、もう一度自身の授業を見直そうという気持ちになることができました。

#### (6) 先進校視察

新しく赴任してきた教職員を中心に、県

外の協同学習実践校に視察を行った。

県外に行くことで、1日を安心して研修だけにあてるメリットがある。そして、先進校の授業の様子、子どもたちの事実、学校の雰囲気など自分の目で見取ってきた事実、感じたこと、学んできたことをレポートにして提出する。

教職員も、学んだことを自分自身の言葉にして語ることが一番の学びとなると考えている。

こうして、学んできたことを全員で共有し、授業力の向上の一助としている。

#### 〈今年度視察校〉

- ・ 茨木市立豊川中学校
- ・ 高知市立南海中学校
- ・ 奈良市立飛鳥中学校
- ・ 神戸市立福田中学校
- ・ 広島市立祇園東中学校
- ・ 東大阪市立金岡中学校
- ・ 小牧市立北里中学校



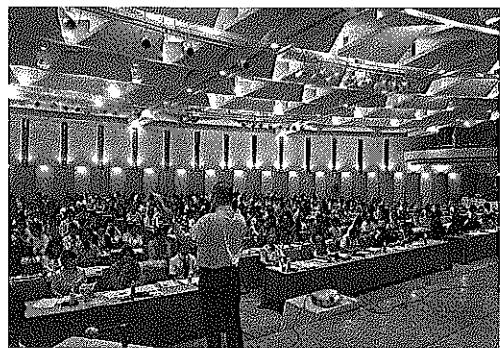
◆ 視察報告記の一部

#### (7) 観察受け入れや講師依頼

本校では、他県からのコミュニティスクール・協同学習・シニアスクールなどについて、視察の依頼が数多くあり、また他校への講師依頼もある。

今年度は、36の都道府県から713名の参加があった「第17回授業づくり・学校づくりセミナー」には、校長と教諭が講師として参加した。

発表後にはたくさんの方々から、「励されました。」などの声をいただくことができた。



◆ 学区の困難さを語る本校校長



◆ 「協同学習は究極の生徒指導」と語る

## 2. 子どもの学力を保障する

子どもたちを学びのトランポリンに乗せる（全員が学べる状態）ためにも、基礎学

力の底上げが必要で、授業以外の時間にもいろいろと取り組みをしている。

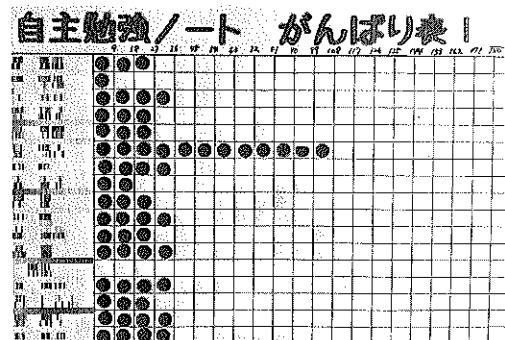
#### (1) 週末課題テスト

学年ごとに、毎週小テストを行っている。合格できなかった生徒には補習を行い、学力の底上げを図っている。

#### (2) 自主学習ノート

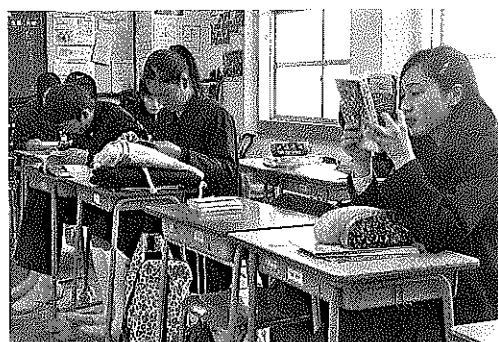
毎週指定されたページ数、家庭学習をしてくるという取り組みである。

進捗状況を廊下に掲示し、生徒のやる気を引き出している。



◆ 自主勉強ノートの一部

#### (3) 朝の10分・昼の5分



◆ 朝読書

朝の会の前の10分を使っての朝読書や朝学習、5限目前の5分を使って、試写や昼計算・漢字などに取り組んでいる。

#### (4) 協同学習に対するアンケート実施

毎年度末、3年生を中心に協同学習に対するアンケートを実施している。

データや感想などは、来年度の研修に使用している。

##### 《生徒の感想より（抜粋）》

◇ 1人の知識や考えだけでは解けない問題も、隣の人や班の人に聞くと、自分とは違う点から見ていたり考えたりしていました。

◇ 分からないときに、どうすればいいのかを聞くと、細かくしっかりと教えてくれたことや、言わなくても察してくれたりしたことに感動して、聞く勇気が出ないときは助かりました。

時々、分からぬところを分からぬままにして終わってしまったり、無意識に壁を作ってしまっていたりしたことは、もう少し改善することができたかなと思います。

◇ 僕が分からぬところなどを友達に聴いたら心優しく教えてくれてとても助かりました。逆に、友達が分からぬ所があつたら教えることもできました。努力すれば良かったと思うことは、友達が小さい声で分からぬと言ったときに、それに気づいて教えることが、もう少しできたのではないかなと思いました。

◇ やる気をなくして、ボーっとしていたら、やるよ！って言ってくれたり、何を

言っていないのに、教え始めてくれたりしてとても助かった。

### 3. 地域の中の学校を意識

『地域の中の学校』を意識し、地域の行事に参加したり、様々な取組を行ったりすることで、『授業を変え、学校を変え、地域を変える』ことを呼びかけている。

ここでは、学校からのさまざまな教育情報を発信する場や、中学校区の保幼小との連携を深める場にもなっている。

外部との関係から得たものは、今後の学校運営や教育課程に生かしていくとともに、地域の方々と一丸となって、子どもを育てていくことを実感させるものとなっている。

#### (1) シニアスクールとの交流

シニアスクールは、学校運営協議会の議論の中で、日常的に地域の方たちが学校と関われないかという構想から、小・中学校の空き教室を利用して、学校の中に高齢者を対象とした教室をつくり、お互いの交流や行事の併催等により、心の交流を図ることを目的としている。

朝の挨拶運動や交流給食、文化発表会の出し物など、シニアスクールの生徒の方々

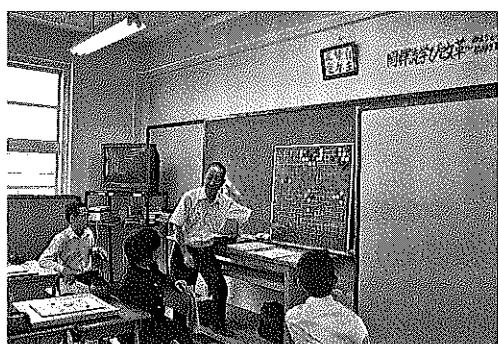
と接することで、生徒たちは多くのことを学んでいる。

#### (2) ふれあい講座の実施

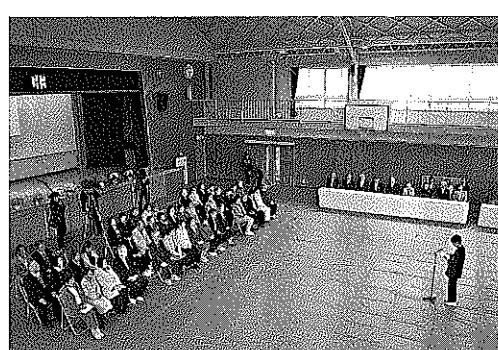
保護者や地域の方々、シニアスクールの生徒の方々を講師として招き、普段できな



◆ けん玉の講座



◆ 囲碁の講座



◆ シニアスクール入学式



◆ 着付けの講座

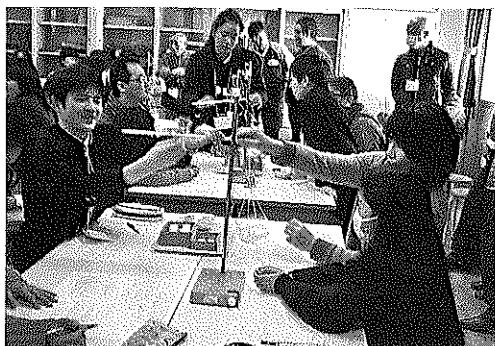
い活動を体験している。

今年度は、囲碁・将棋・けん玉・お菓子作り・プラモデル作り・アロマテラピー・ペタンクなどが実施された。

### (3) 地域行事への積極的参加

#### ① イメージアップ岡輝！

地域の方、保護者、生徒が一緒になって岡輝地区のイメージアップを図る。ここ数年は、学区の様々な方に参加してもらい、協同学習の体験を行い、協同学習を知ってもらう場となっている。



◆ 授業の様子

#### ② つながれ岡輝！

学区10校園（六校園+私立保幼稚園3園+県立高等学校）・シニアスクール、学区の文化サークル等が合同で、「音楽と踊りのフェスティバル」を開催している。



◆ イベントの様子

#### ③ クリスマスこどもの集い



◆ 生徒会による出し物

#### ④ 岡輝まつり



◆ 吹奏楽部による演奏会

#### ⑤ 子育て in 岡輝



◆ 「みんなで朝ご飯を作ろう」の様子

## IV 研究のまとめ

### 1. 研究の成果

#### (1) 不登校出現率の減少

本校では、不登校出現率10%を超える年が多かったが、協同学習に取組始めて4年目から7%台に減少した。

しかし、全国の不登校率は2%台であることから、今後も継続した取り組みを六校園で行っていくことが必要である。

#### (2) 高校進学率の安定化

協同学習に取り組んで以降、高校への進学率90%以上を毎年維持することができている。また、ここ数年は受験した生徒全員が進学することができている。

岡山県の進学率96%台を超える年もあった。今後も、15年体制で、学区全体で子どもを育て進路を保障する取組を継続していくことが大切であると考える。

### 2. おわりに

六校園や地域の方々と協力し合って、0歳から15歳までの一貫した子育てや教育を実現させたいという思いから行ってきた様々な取組により、子どもたち同士の人間

関係は柔らかくなり、学校生活も落ち着いてきた。

しかし、まだまだ地域の困難さや厳しさがなくなったわけではなく、学区の不登校出現率も依然として高いままである。

また、前校長が「授業で学校を変える」ことを目指し、試行錯誤のうえ取り組み始めた共同学習も今年で9年目になる。

今では保幼小と学区に広がり、中学校区全体で取り組むことができている。

公立学校の教職員には転勤がある。取り組み始めた当時から本校に勤務している教職員も残りわずかとなった。このような現実に教職員全体が危機感を常に持ち続け、今までこの学区が続けてきたこと・理念・哲学・方策を、今後も全教職員で継続・継承していくかなければいけない。

学区全体で取り組まなければならないという現実、取り組み続けていかなければならない背景がそこには存在する。

今の子ども達が親になり、その子ども達が岡輝中学校区で親と同じように学ぶ。学校改革だけではなく、地域を変えることを目標に考えていかなければならないことを忘れないようにしたい。

(研究主任 梶山和俊)